

平成29年6月10日

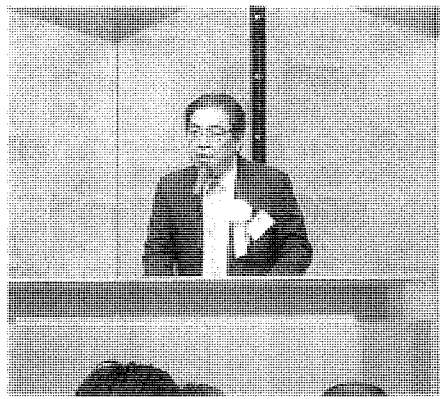
第149号

NJ素流協 News

平成29年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

ノースジャパン素材流通協同組合 第14回通常総会開催

NJ素流協は5月23日、第14回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約100名が出席した。



鈴木理事長あいさつ

1 開会・理事長挨拶

はじめに横澤孝一副理事長が開会の辞を述べ、続いて鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。「昨年7月に下山裕司前理事長から職を引継ぎ尽力して参りましたが、平成28年度の素材取扱実績が37万³m³を超え、合板材・集成材用材については東日本大

震災以前の実績を超えました。これはひとえに皆様のご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。様々な取引先のニーズに適応して木材を供給できた成果と考えます。我々は木材商社ではありません。『欲しいものをよい値段で扱ってくれるなら』というのが木材商社の付き合い方ですが、私ども協同組合は、組合員が生産したものを全てお金に変えて山元に還元することが目的です。山には様々な樹種があり、よい山に当たるともあればそうでないこともあります。様々な樹種、径級、長さ、A材からD材まで全てをうまく供給することが、生産者と山主への還元の道と考えます。その意味で生産材の10%を真剣に取り扱うことが、90%の丸太の流通のために極めて重要です。さらに、地域の発展に貢献する組合でありたいと考えております。素材生産業が活性化することで地域

に人が残り、農業にもよい影響を与えると考えます。

今年度に向けての課題は山積しています。小径木、目の粗い大径材、高齢級の良材、短尺材、背板、短コ口等をどう販売していくか、新しい道を拓いていく必要があります。また、再造林対策をしつかりやっていかねばなりません。カラマツ種子をどう集めるか、少花粉スギをどう育てていくか、また、山主の造林意欲をどう高めていくかというところで、関係者のご協力で再造林基金を構築しています。これは資源の保続だけでなく、地元雇用への貢献にもなります。造林の担い手であった兼業農家が高齢化している中で、我々が雇用了した労働力で、造林事業を確立していくことが重要です。さらに、原木流通トラック協議会の設立、組合員後継者のための研修制度、強度の高いカラマツ材エリアの研究等にも取り組んでいきたいと考えております。来年もまた、こうして皆様に感謝の言葉を述べられるよう、頑張つて参ります。」

2 来賓祝辞

東北森林管理局長 瀬戸宣久氏(代)
 盛岡森林管理署長 長江恭博氏、
 岩手県農林水産部長 紺野由夫氏(代)
 林務担当技監 阿部義樹氏)、岩手
 県森林・林業会議理事長 中崎和久
 氏、日本合板工業組合連合会長 井
 上篤博氏(代 ホクヨープライウツ
 ド(株) 取締役業務部長 三河寿司氏)

3 感謝状贈呈

林業振興や災害復旧に貢献された
 次の組合員等に対し、鈴木理事長か
 ら感謝状と記念品の贈呈を行った。
 (敬称略、五十音順)

▽カラマツ着花促進・種子採取プロ
 ジェクト協力組合員等(8名)

(有)川又林業代表取締役 川又正人、

(株)階上林業代表取締役 袖平光男、

(株)ふるさと木材代表取締役 畠山辰

也、(有)丸大県北農林代表取締役 大

粒来仁孝、(株)吉本岩泉事業所 取締

役所長 由井正宏、林業白濱代表

白濱秀基、紫波郡紫波町 太田浩組

(組合員外)、宮古市崎山 齋徳林業代表

齋藤眞琴(組合員外)

▽台風10号被害支援まきプロジェクト

ト協力組合員(7名)

(株)泉林業代表取締役 泉悦男、(株)

大川運送代表取締役 佐々木豊秀、

(株)鹿児島屋代表取締役 及川喜久平、

佐藤林業代表 佐藤勇一、(有)三栄興

業代表取締役 松田光治、(株)西南育

林代表取締役 高橋務、(株)古里木材

物流代表取締役 畠山正

▽台風10号被害支援者(岩泉町長か

らの感謝状伝達)

盛岡市神子田町 佐藤勇三(組合

員 佐藤勇一氏(ご尊父)

4 議事

事務局から総会の成立(組合員総
 数142名中本人出席40名、委任状
 出席19名、書面議決書提出70名)が
 報告された。続いて(有)白樫林業代表
 取締役白樫誠一氏が議長に選出され、
 提出議案の審議・承認が行われた。
 主な内容は次の通り。

▽議案第1号「平成28年度事業報告
 書及び決算関係書類承認の件」

・平成28年度の共同販売事業におけ
 る素材取扱数量は、合板工場や集成
 材工場向けが前年比111%の26万
 9873m³、バイオマス材が前年比

表 29年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	185,000 m ³
製材・集成材用 素材・その他	115,000 m ³
計	300,000 m ³
バイオマス 発電用素材	100,000 t

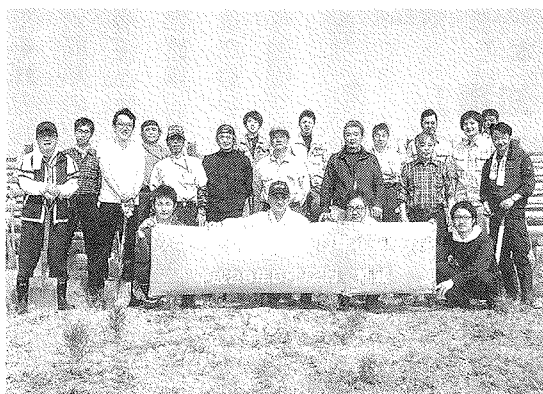
172%の9万3305トンとなつ
 た。国有林素材の委託販売では、計
 9回の入札を実施し、約7000m³
 を取扱った。なお第3回からウエブ
 入札を開始した。バイオマス材1ト
 ン11m³とすると、以上の取扱数量
 合計は37万100m³となった。
 ・技術開発、技術指導、情報提供に
 関する事業として、①技術開発と定
 着化(低コスト再造林仕組の定着化、
 検知業務改善システムの実用化検証
 等)②研修会、林業講演会等の開催
 ③技術指導(合法木材等供給事業者
 研修会の開催等)④情報提供等(N
 J素流協ニュース発行、地区別組合
 員会議の開催等)を実施した。
 ・国、県、林業関係団体等からの助

成や受託、共同による事業として、
 ①需給情報共有化対策事業②優良苗
 の安定供給と下刈省力化による一貫
 作業システム体系の開発研究③花粉
 症対策苗木への植替促進事業等を実
 施した。
 ▽議案第2号「平成29年度事業計画
 書及び収支予算決定の件」
 ・共同販売計画量は表の通り。
 ・東北森林管理局委託販売業務にお
 いて、素材9151m³を取り扱う。
 ・低コスト再造林を促進する支援シ
 ステムの仕組みづくりを行う。
 ・技術開発と技術指導、情報提供に
 関する事業として、①技術開発と定
 着化(低コスト再造林の推進等)②
 研修会等の実施(林業講座の開催等)
 ③技術指導(合法木材・バイオマス
 材供給指導等)④情報提供等(NJ
 素流協ニュース、地区別組合員会議
 等)を実施する。
 ・受託事業として、①需給情報共有
 化対策事業②花粉症対策苗木への植
 替促進事業③優良苗の安定供給と下
 刈省力化による一貫作業システム体
 系の開発研究等に取り組み。

トピックス

「ノースジャパン 100年復興の森」で 抵抗性クロマツを植栽

5月12日、宮城県名取市の台林国有林内において、N J素流協の組合員、役職員ほか23名が参加し、「ノースジャパン100年復興の森」クロマツ植栽活動を実施した。



白砂青松がよみがえる日を待ち望んで！

東日本大震災により被災した海岸防災林の再生のため、東北森林管理局は樹木の生育基盤を造成し、企業や市民団体と連携して植栽活

動を行ってきた。N J素流協は本年4月、仙台森林管理署との間で

「仙台湾沿岸地区海岸防災林（名取市台林国有林内）の再生に向けた活動に関する協定書」を締結した。計画の概要は、植栽面積0.08ha、マツノサイセンチュウ抵抗性クロマツのコンテナ苗400本を植栽し、以後10年にわたり刈・施肥等保育と、林内巡視や清掃等の環境整備を行うものである。今回使用した苗木は、組合員である(有)早稲谷・菅原苗木店（気仙沼市）が生産したものである。

現場は仙台空港から程近く、潮風から若木を守るための防風柵が造成地の区画にめぐらされている。(株)玉山製材所（盛岡市）はこの柵を製造、納入したとのことで、今回の植栽活動にも参加いただいた。実施に当たっては、同地において震災直後から海岸林再生プロジェクトを推進してきた、公益財団法人オイスカ名取事業所総括兼「名取市海岸林再生の会」事務局長、佐々木廣一氏のご指導を仰いだ。

前日同事業所を訪ね、液肥と吸水ポリマーを分けていただいた。植栽する造成地の土壌は肥料分が乏しい上に、植栽時期は乾燥して強風が多い。吸水ポリマーと液肥を水で薄めたものを苗木の根に浸透させることによって、これまで100%近い活着率を達成してきたとのことである。



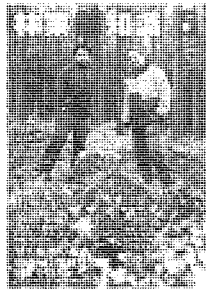
苗木生産者さんも参加して一緒に作業

当日は晴天のもと、スコップや鍬を持ち寄って参加者が集合した。鈴木理事長の挨拶に続き、経営企画部吉田課長が作業手順を説明した。参加者はまず、排水を促すための素掘り側溝の作設に汗を流し

た。続いてコンテナ苗の植栽を行ったが、造成地の土は堅く締まり、石も混じっている。植え付け位置の土を鍬でよくほぐし、液肥を根に含ませた苗木を植え付け、風で倒れることのないよう、根元をしっかり踏み固めた。2時間ほどで400本の苗木の植栽を終了し、記念撮影をして散会となった。

林業労災再発防止のための 緊急集団指導会に出席

既報の通り、平成28年の岩手県内の林業現場での死亡労働災害が3件に達し、林業死亡労働災害多発警報が発令されたことを受けて、林業・木材製造業労働災害防止協会岩手県支部は5月10日、盛岡市の岩手県林業技術センターにおいて、「林業労災再発防止のための緊急集団指導会」を開催した。同協会の団体会員や県内の各地方森林の安全衛生指導員ら25名が参集し、N J素流協からは経営企画部吉田課長が出席した。岩手労働局小田昭信健康安全課長が「林業におけ



おすすめの本
月刊「林業新知識」

全国林業改良普及協会
定価：3,680円(年間購読料/税・送料込)
林業関係者にはすでにおなじみの専門誌ですが、5～6月号に興味深い特集「司法書士に聞く山林の名義変更ガイド/林家の子弟向け」が。

相続登記の手順を具体的に解説、Q&Aでよくある疑問に答えてくれています。

る労働災害の防止対策について、林災防東北地区担当安全管理士吉田忠雄氏が『「かかり木」の死亡災害を調査して感じたこと』と題してそれぞれ講義を行った。
同年の死亡災害発生上位は、北海道と鹿児島県が各5件、岩手県、三重県、宮崎県が各3件であった。また岩手県における警報発令は2年連続であった。

第68回全国植樹祭に出席

第68回全国植樹祭が5月28日、富山県魚津市の魚津桃山運動公園を主会場に開催され、天皇皇后両陛下が優良無花粉スギの苗木などをお手植えされた。全国から森林・林業関係者ら約7500人が出席し、岩手県からは当組合副理事長の横澤林業(株)横澤孝一代表取締役夫妻らが列席した。

全素協第43回通常総会に出席

全国素材生産業協同組合連合会総会が5月25日、東京都において開催され、当組合から鈴木理事長と高橋早弓常務理事が出席した。

合法木材等供給事業者を認定

認定番号 素流協 118
事業者名 (株)フォレスト創森(北上市)
5月1日付で認定。当組合認定事業者は111名となった。

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成29年5月30日(火)
市場：岩手南部森林管理署

(参加者人数 4名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
601-1	スギ	2.00	9-14	込	707	20.995	0	駒ヶ岳
601-2	スギ	2.00	8-16	込	507	15.162	0	駒ヶ岳
601-3	スギ	2.00	9-16	込	604	18.293	0	駒ヶ岳
601-4	スギ	2.00	16-38	込	1,364	115.434	2	駒ヶ岳
601-5	スギ	2.00	16-34	込	339	30.936	1	駒ヶ岳
601-6	スギ	2.00	16-32	込	196	16.686	1	駒ヶ岳
※601-7~12	スギNA	2.00		低質	層積	163.561	3	駒ヶ岳
601-13	スギNA	2.00		低質	層積	7.056	3	駒ヶ岳
601-14	スギNA	2.00		低質	層積	26.662	3	駒ヶ岳
601-15	スギNA	2.00		低質	層積	10.886	3	駒ヶ岳
※601-16~19	スギNA	2.00		低質	層積	76.407	3	駒ヶ岳
601-20	スギNA	2.00		低質	層積	6.703	3	駒ヶ岳
601-21	アカマツNA	2.00		低質	層積	6.703	3	駒ヶ岳
※601-22~26	アカマツNA	2.00		低質	層積	137.655	3	駒ヶ岳
601-27	LA	2.20		低質	層積	35.137	3	駒ヶ岳
※601-28~29	LA	2.20		低質	層積	8.404	3	駒ヶ岳
合計					3,717	696.680		

注 ※は落札単価、入札枚数同一のため合算して記入しました。

管内供給先情報

1. 区界バイオマス発電所用燃料材の受入れを(有)川井林業重石工場でも開始。
2. (株)門脇木材本社工場火災(5月30日)にお見舞い申し上げます。

なお、協和工場および小径材工場での小径材等の受入れは継続。

お知らせ

地区別組合員会議を開催します。詳細は通知文書、ウェブで。

地区	日時	会場
青森	6月14日(水) 13:00~	七戸中央公民館
県北	6月15日(木) 13:00~	一戸町町民文化センター
県央・県南	6月21日(水) 13:00~	かんぼの宿一関
沿岸	6月23日(金) 13:00~	大船渡市魚市場

ちよつと気になる木の話

11

バーク処理問題から考える
樹皮は役に立たないのか？

製材工場や土場におけるバーク処理について、何とかならないのかと相談を受けることがある。量産KD材工場では、バークは乾燥用の燃料として活用されている。

しかし、KD材工場以外では、バークの処理は産業廃棄物扱いである。とりわけ、製紙用チップを背板で作っている工場は、バーカーを使うので、バークだけが大量にたまることとなる。それならKD工場と同じく、燃料用としてバイオマスで売ったらどうか、となる。そのためには製材工場でのチップをやめて、皮付きのまま背板受入れのバイオマス工場に出し、製品にすれば問題は少ない。しかし、工場で皮がむけてしまつて出たバークの処理は難しい。特に北国では、雪に埋めると、水分を含んでなかなか乾燥しないので難しい。屋

根をかければ幾分良好になるが、

コストがかかることとなる。バーク堆肥も産業としてはあるが、いづれにしても、バークの資源化が重要である。マイナス支出をプラス収入とする途で、収益性はとんでもなく改善することとなる。中には、バーク破砕機を導入すれば、5000円/tで引き受けるバイオマス工場も存在するようである。それでは、樹皮は元々役に立たないものなのか、である。

「桧皮茸」、「杉皮茸」と言われるように、屋根葺き材料として今だに文化財や古民家用としては需要がある。桧皮茸材料は、ヒノキ立木の内皮を残して一度剥皮してから、再生した樹皮を使う。再生までの間に伐採されてしまうので、の労力が無駄になってしまうので、国有林や大山林所有者の森林を利用する例が多い。この職人が多く存在する兵庫県も現存する。次に、山桜の皮である。角館の

樺細工として有名であるが、梅雨時期にサラツとむける時に採取することが必要である。今だに不足しているので、集荷システムの構築が求められる。あまり知られていないが、山桜の内皮は漢方薬用としてグラム単位で取引されている。山桜はフローリング等用材でもあり、燻製用チップ、薪でも最高級品のため、皮と内皮も含めれば宝の山(木)である。

さらに、ノリウツギという木がある。何故ノリウツギかと言えば、和紙用のノリ(糊)だからである。一般的にはトロアオイが使われていると思われるようだが、本来はノリウツギの内皮である。吉野和紙ではこれを使わなければならない。沢沿いなどに沢山自生するが、手間がかかるので供給する人は少ない。もちろん、和紙材料のこうぞ、みつまた、雁皮(がんび)も樹皮である、いわば、和紙全体が木の皮なのである。

そのほかには、織物で「シナ織」とか「白樺織」なども存在する。

意外な例に、長野県北部の「お盆の迎え火」風習がある。迎え火の材料は白樺の樹皮である。この時期どのスーパーでも入り口に山積みされている。その上国産と中国産があり、値段は倍半分である。こんな品物まで輸入品かとガツカリした思いがある。

このように、伝統に基づく利用法は沢山あるが、昨年当組合で視察したブルーベリー用のマルチング利用は新たな途である。農業において、草刈をせず、かつ水を通し、無害であり、肥料にもなるということとは極めて意義深い。農業と林業とがあまり結びつかない現状であるが、JAやCOリとかでも扱ってもらえれば、バークも本望ではないかと思う。ともかくにも、全て山元還元である。



バークだって役に立ちたい

森林・林業 おでかけ！レポート (青森県青森市)

青森市森林博物館

所在：青森市柳川2丁目4-37

新シリーズ今回は、北東北の森林と林業に関わる貴重な資料を多数所蔵・展示している「青森市森林博物館」をご紹介します。

* * *

青森駅西口から徒歩10分、商店が並ぶ国道沿いの一角がふと開け、マツなどの樹木に囲まれた中に緑の屋根に白い壁の瀟洒な洋館が現れる。明治41年(1908)に津軽や下北のヒバ材を使用したルネッサンス式洋風木造建築物として建てられた、旧青森大林区署、後の旧青森営林局庁舎である。昭和54年(1979)、裏手に新庁舎(現在の青森市役所柳川庁舎)が完成すると、青森市が建物を譲り受け、同57年(1982)森林博物館として開館。平成16年(2004)には青森市有形文化財に指定されている。

2階建ての館内には「木と暮らし」



明治の佇まい(写真：青森市教育委員会所蔵)

「青森とヒバ」等6つの展示室があり、森林の成り立ちや木材の用途の解説、昔の林業作業の写真や道具などが展示されている。と、ここまでは一般的な森林林業の展示施設と大

差ないが、このユニークな見所は、昭和52年公開の映画『八甲田山』のロケが行われた旧局長室と、世界の高峰滑降で有名な三浦敬三(故人)・雄一郎氏親子の使用したスキー板。さらに、津軽森林鉄道関連の資料が公開されていることであろう。

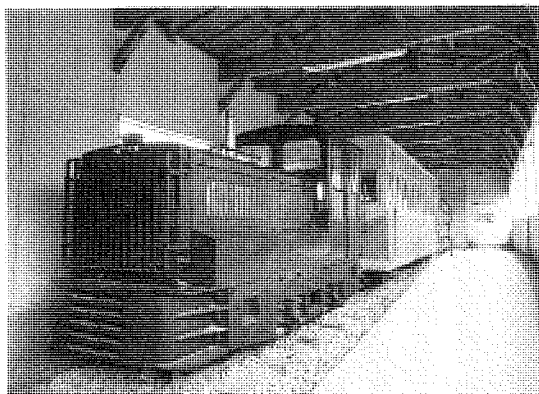
映画で陸軍連隊長室のシーンに使

われた旧局長室は、当時の内装がほぼ再現されているという。故高倉健さんなど豪華俳優陣を囲んで当時の職員さんたちが撮影したスナップ写真も飾られている。

「雪とスキー」展示室には、青森県におけるスキー技術や競技の歴史、普及に寄与した県人の資料等とともに、ケヤキなどの一枚板から作られた昔のスキー板が展示されている。現在は表面をグラスファイバーや樹脂などで覆って作るが、芯(コア)部分は依然木質が主流であるという。立派な木材加工製品であることに思い至る。

この建物の西側を流れる沖館川の河口付近は、かつて貯木場や官営製材工場が立地する一大林産集散地であった(ここに大林区署を移転してきた理由でもある)。明治41年には、動力車で牽引するわが国初の本格的な森林鉄道路線「津軽森林鉄道」が運用を開始し、沖館貯木場に津軽半島のヒバが集まってきた。津軽森林鉄道の総延長は、支線分線を合わせて320kmに及んだ(林野庁サイト

より)。前庭の車庫には、ディーゼル機関車、客車、丸太を積んだ貨車の実物が保存されている。



鉄道ファンにも興味深い資料が沢山見られる！

青森市森林博物館

青森駅西口より徒歩10分
市営バス「森林博物館前」
観覧料：一般240円、高・大学生120円、小中学生と70歳以上は無料。
開館時間：9：00～16：30
休館日：毎週月曜(祝日に当たるときは翌日)と年末年始(12月28日～1月4日)
一部展示物は内容の古さが否めないが、ヒバの研究や森林鉄道に関する資料は圧巻。

平成29年5月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	8,826	72.3	141.0	9,622	94.5	193.7	18,447	82.4	164.3
カラマツ	2,582	94.1	109.3	572	84.8	35.2	3,153	92.2	79.1
アカマツ	1,698	52.5	48.5	172	102.6	52.3	1,871	55.0	48.8
その他針葉樹	0	*	*	0	*	*	0	*	*
広葉樹	0	*	*	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
合計	13,106	72.1	108.1	10,366	93.6	149.1	23,471	80.2	123.0

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,672	83.4	172.3
カラマツ	1,209	73.3	75.0
アカマツ	3,236	135.8	190.4
合計	10,117	93.4	153.3

樹種	今年度累計			
	合板用 (m³)	その他 製材用等 (m³)	計 (m³)	バイオマス (t)
スギ	21,033	19,807	40,839	12,471
カラマツ	5,326	1,246	6,572	2,859
アカマツ	4,932	340	5,272	5,619
その他針葉樹	0	0	0	0
広葉樹	0	43	43	0
合計	31,291	21,436	52,726	20,948
目標達成率(%)	16.9	18.6	17.6	20.9
計画量	185,000	115,000	300,000	100,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成29年5月の需給動向】

- スギ素材の出材が全体的に供給過多のため、受入制限を行う工場も有り。この状況は当面続く。
- カラマツ素材も順調に出材されているが合板工場を中心に引き合いが強く、供給は問題なし。
- アカマツ素材も順調に出材、6月から松くい虫の伐採制限があるため出材は安定し納入可能。

耳からウロコ

林業関連会社名から考える

〇〇木材と〇〇材木の違いは？

林業関連の社名には様々な名前がついている。代表的な例は、〇〇林業、〇〇木材、〇〇製材、〇〇材木等である。

扱っているものを正確に表現しているのは、製材工場の〇〇製材であるが、製材以外にも扱っていると〇〇木材、〇〇産業が多くなる。合板工場も〇〇ベニア、〇〇プライウッド、〇〇合板工業と、合板そのものである。しかし、繊維板、MDF等様々な商品を製造しているのと、「ベニア」などが何も付かない例が見られる。意外にも、集成材には、〇〇集成という企業名はない。集成材から出発した企業が少ないからではないだろうか。

川上、川中に目を向けると、製造物品や取扱品目以上に、はなはだ曖昧である。よく見る〇〇木材と〇〇材木の違いは何なのか、である。

木材は、原材料の丸太・角材で、木材からはパルプチップも製造される。一方、材木とは建築用の木材のことであるから、材木からはパルプチップはつくらない(不良在庫から回るかも知

れないが...)。よって〇〇材木店は、建築用木材を扱う問屋・小売に多くなる。そして〇〇木材は建築用に限らず、もっと川上に近く、製材加工と素材生産を組み合わせた企業が名乗ることが多くなる。〇〇林材も同じ意味かな。

それでは素材生産のみの場合には、〇〇素材生産の名称があるかというところ、ほとんどない。造林のみの場合には、〇〇造林の名称は多数ある。何故か、である。素材生産の場合には、ほとんどが〇〇林業を名乗っている。これは、素材生産と造林を組み合わせた事業者が多いこと、自伐林家から始まったため、〇〇林業が主流を占めたことが理由かな。それでは、本当に森林経営のみを行っている者とは、法人化した場合には、〇〇山林と名乗る場合が多い。

最後に〇〇林産とは何か、である。各行政において、林産課と木材課の違いは何かといえ、林産課は、木材以外の特用林産物を扱うことである。そう、林野庁の特用林産対策室が経営課に移る前は、木材課は林産課だったのである。

とすれば、〇〇林産は、山から出る産物を色々扱う会社ということになる。この名前に本当に合う会社もあるのでは……。